

このコーナーでは、皆さんからの「お便り」や「写真」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆お便りは、字数 200 文字以内。写真は、1 枚につき 50 文字以内。（文章は、必要に応じて添削する場合があります）
- ◆住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ペンネーム（記入がない場合イニシャルで掲載します）を記入の上、市広報係までご投稿ください。
- ◆投稿は、はがき・封書・メールまたは直接広報係へ
- ◆締切は、毎月 10 日
 ※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
 ※紙面の都合上、掲載できないこともあります。

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
 伊佐市大口里 1888 番地
 総務課広報係（大口庁舎）
 「和みのひろば」係
 ☎1311
 ①1116・1117
 ✉koho@city.isa.lg.jp



本城島内の公民館前に見つけた看板を紹介します。
 本城小1年生一同「とまってねぼくがわたしがわたるから」
 本城小2年生一同「うんてん手さんおさけはやめてよそ見もやめて」
 島内青壮年部が設置した交通安全の注意を促す看板です。見るたび、子どもたちの思いに、身が引き締まります。
 （本城 島内青壮年 70代）

「親に似らんよか子」の話。陸上で県トップをいく自慢の娘。大会毎に見事な成績を残している（親バカといわれも仕方ないが事実だ）。その娘の活躍が表彰されることになったが、別の大会で出席できない娘にかわり私が代理を務めることになった。授賞式で起こるクスクス笑い。私を知る人々が「活躍する娘」とあまりに違う「ダメ親父」を比べての笑いだ。「あー恥ずかしい。娘が自慢できる父になりたい！」と

ごんべさん、立派な娘さんをもつ悩みもあるんですね。でも、恥ずかしがることはありません。間違いなくお父さんの遺伝子を半分受け継いでいるわけですから、ごんべさんは自信を持って胸張って「俺の娘だ！」と自慢しましょう。



東京在住の友がふれセンに寄贈した絵。画題「心のふるさと曾木の滝」。懐かしい友の作品をご覧ください。
 （羽月 N・K 70代）

強く念じた瞬間である。
 （大口 ごんべさん 40代）



人口のうごき
 （住民基本台帳から）

H25.11.1 現在（前月比）

総人口	28,748人	(- 62)
男	13,297人	(- 32)
女	15,451人	(- 30)
世帯数	14,129世帯	(- 20)



編集後記

大口高校ラグビー部「憧れの花園挑戦」が始まった。細かいルールを知らない私は、「このラインに届けば、得点になるんだ」ということだけで、攻める大口高校の正面に陣取った。カメラをかまえていたはずが、試合に夢中で、写真どころか降り出した雨からカメラを守ることにすら忘れて声援を送った。試合終了の笛が鳴るまで勇敢にたたかっていた彼らの花園出場を、残念ながら今年叶えることはできなかったが、最後まで諦めず走り続けた選手たちが、楯円のボールとともに希望と感動を運び、まちを元気にしてくれた。試合後、「どうして泣いてる選手たちを撮ってるんだ」と、自問自答しながら号泣していた私が「集合写真いい？」と声をかけると、選手たちはキョトンとしている。「そんなに号泣って、このおぼさんは誰かの親戚？」と思ったに違いない。いいえ！「私は涙もろいお年頃になった市役所のおぼさん」。今更、古い流行語だが本気で言いたい。「痛みに耐えてよく頑張った、感動した」